

2020年度前期 授業に関する学部・学科・センター自己点検・評価

2020年度前期に授業アンケートにお答えいただきありがとうございました。

授業アンケート結果を参考にして、それぞれの先生が自己点検・評価をされました。学科長がそれらをまとめ、さらに学部長が総括をした自己点検・評価をここに掲載いたします。

良かったことはさらに継続し、改善すべきことは今後の授業にむけて学生のみなさんにフィードバックをしていきます。

今後とも授業改善のために、「学生による授業評価アンケート」や「授業について教育改善委員の意見を聞く会」にご協力ください。

2021年2月

目 次

文学部	1
人間科学部	2
教育学部	3
英語学科	6
日本語日本文化学科	7
総合文芸学科	8
心理学科	9
都市生活学科／生活学科都市生活専攻	10
食物栄養学科／生活学科食物栄養専攻	11
子ども発達学科	12
ファッション・ハウジングデザイン学科	13
教育学部	14
全学共通教育センター	15
キャリア教育センター	16
外国語教育センター	18
教職支援センター	19
教務部	20

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 文学部

氏名 打田 素之

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

日文の報告にもあるように、今年度、好むと好まざるとにかかわらず、教員全員が I C T の積極的な利用に取り組み、それが実現できた。また、そうすることによって、新しい授業の形が発見できたことは大きい。Zoom を通しての双方向的なやり取りは、対面授業にはない効果が期待できることがわかったし、画面の共有機能を通しての資料提示は、学生にとっても得るものは多かったと思われる。

(2) 改善すべき点

大学の体制として、起こり得るトラブルを想定して、事前に対策（Manaba 使用説明会、前期授業の開始時期の変更、プロジェクトチームの設置など）が講じられたため、ほとんど問題はなかったのではないかと推察する。ただ、非常勤の先生におかれては、出講先ごとにシステムが異なるため、苦勞されたことと推察する。

T V 会議システムの導入が遅れたことが、学生・教員の双方にとってマイナスとなったが、これはすでに解決されている。ただ、前期段階では、教員がシステムを使いこなすまでには至っていなかったが、後期、それもほぼ解消したのではないだろうか。いずれにしても、教員の技術への習熟は必須と言える。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

遠隔と対面の併用授業の可能性がある場合、カメラ・マイクなど設備の整備は必須である。

(4) その他（自由記述）

提出日：2021 年 1 月 18 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 人間科学部氏名 竹中 康之

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

初めての遠隔授業、しかも急な遠隔授業対応にもかかわらず、各教員が様々な工夫をして授業を展開していた。とりわけ、「manaba」の機能を駆使し、グループディスカッションの実施、学生の理解度の確認、質問への迅速な対応など、双方型授業の実践を目指していた点が評価できる。このような熱心な対応により、学生から高い評価を得た授業が多くみられた。

(2) 改善すべき点

双方型授業を目指すものの、グループワークや質疑応答があまり活発化しなかった例も散見され、テーマの設定や運営方法の改善の必要性が授業担当者から指摘されていた。

授業内容によっては、「manaba」の使用のみでは授業の到達目標を達成できないものもあり、対面授業との併用、Zoom などの使用も検討する必要がある。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

遠隔授業の実施・改善に向けた学科からの意見：

- ・設備面の支援（ノートPCの貸与の充実など）、学生のITスキルの向上を目指したカリキュラムの改善
- ・manaba以外の授業（視覚だけでなく音声配信や動画配信）、それに伴うweb授業用のカメラとスピーカーの導入
- ・遠隔授業で学生対応に苦慮している教員の声を吸い上げる仕組みを大学に要請したい。

(4) その他（自由記述）提出日：2021年1月22日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教育学科

氏名 谷川 弘治

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- ・ まずは COVID-19 感染拡大に伴い急きよすべての授業が遠隔で出発せざるを得ない中で、担当教員の献身的なはたらきによって、乗り切ることができたことへの謝意を述べさせていただきます。これらは関係職員の的確な支援と、なによりも学生の学びへの意思と努力によってなされたものです。
- ・ 既に ICT 活用を進めていた授業もありますが、全面遠隔授業となったことで Manaba, Zoom 等の遠隔授業ツール活用ノウハウの蓄積や各種デジタルコンテンツ等の構築が進んだことが伺えます。また、対面授業になっても Manaba などのシステムを活用する動機づけともなったようです。

いわゆる With Corona の時期における授業展開では対面授業と遠隔授業のハイブリッド化が求められますが、その土壌づくりが進んだといえます。

<作成されたデジタルコンテンツの種類 書類上分かる範囲でまとめました>

①レジュメや解説のドキュメントファイル (pdf, docx)

いつもの講義を語り口調のまま文字化した場合もある

②音声ファイル

③パワーポイント音声解説付き動画ファイル (ppsx, mp4 など)

④実技の動画ファイル

- ・ これまで『自己点検・自己評価』においてはアウトカム評価（成績や達成度からみた授業内容や方法の評価）、プロセス評価（学生の主体的な参加を促す準備から終了後までのプロセスの妥当性の評価等）のどちらか一方が記載されていることが多い印象をもっておりました。今回より『自己点検・自己評価』の柱として「授業準備」「学生の目標達成状況」「授業外学習」が設定されましたので、プロセスとアウトカムの双方に目が向くようになったようです。評価に厚みが出てきたように思われます。

(2) 改善すべき点

改善点とまでは言えませんが、今後重視すべき課題を挙げていきます。

- ・ 学部・学科としても、教員の創意工夫や困難点などの情報共有と意見交換を継続する必要があります。
- ・ 遠隔授業は試行錯誤の連続でしたので、いつものようにはできなかったこともあります。長期的な影響を検証していく必要があります。
- ・ 模擬授業が出来なかった影響を指摘する意見がみられました。Manaba システムで模擬授業は実施できません。後半は遠隔と対面を組み合わせることで対応しましたが、必要なすべてに適応できませんでした。今後、遠隔授業が主体となる状況が発生した場合を想定して、対応を検討していくことが必要です。Zoom などのビデオ会議システムではある程度可能ですが、その場合、参加者が顔を見せて参加することなどが必要ですので、Zoom 利用のルー

ルづくりに反映させていただけるよう関係部署に働きかけていきたいと考えます。

- ・ 自己点検・評価票には、前年度の自己点検・評価票で示した改善点を記入する欄がありません。これを記入することで、改善点をどう具体化したかを示しやすくなります。これは、FD委員会に提案していきたいと考えます。
- ・ 授業外学習については、課題提示に焦点づける、実施時間に焦点づけるなどのコメントが多くありました。もう一步深めるためには、授業外学習時間と目標達成状況の相関はどうか(授業外学習時間を予復習と位置付けた場合)、授業の想定範囲を越えた学習になっているか、などを検討することが必要です。どのような授業外学習が必要か、意見交換を行う点は学科の課題と考えます。
- ・ COVID-19は学習面だけでなく、学生の心身の健康や人間関係、経済面に大きな影響を与えています。引き続き状況を見守り、必要な支援を、関係部局と協力しながらすすめていきたいと考えます。

(3) 改善に向け、学科(センター)として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点(学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

FD委員会あて

- ・ 自己点検・評価票には、前年度の自己点検・評価票で示した改善点を記入する欄がありません。これを記入することで、改善点をどう具体化したかを示しやすくなります。次年度の自己点検・評価票では、その点の改善のご検討をお願いします。
- ・ アウトカム評価として学生による授業評価結果の「問2」の平均点をとりあげるようになっていますが、その他の授業評価結果も参照するよう促す必要があります。さらに、成績分布など、客観的データも参照するよう促す必要があります。
- ・ 「授業外学習」を項目としてあげることで、これを重視する姿勢が示されています。授業外学習について、今回は、授業外学習の課題提示を実施したという事実をあげるもの、授業評価アンケート結果としての実施平均時間について考察するものが認められました。この考察をもう一步深めるためには、①授業外学習時間と目標達成状況の相関を検討する(授業外学習時間を予復習と位置付けた場合)、②授業の予復習の範囲を超えた学習を展開したか(授業外時間を授業の応用と位置付けた場合)など、位置付け方にあわせたデータを得て検討することが必要です。このうち、授業外学習時間と目標達成状況の相関の集計については、FD委員会で検討できる範囲と思います。また、どのような授業外学習を求めていくのか、位置付けに関しては教学委員会として意識付けを行っていただき、その上でFD研修で扱い、考え方や手法について学ぶ機会を設ける必要があると考えます。

教学委員会あて

- ・ 個々の教員レベルでManaba, Zoom等の遠隔授業ツール活用ノウハウと各種デジタルコンテンツ等が構築されてきたこと、全学レベルで遠隔授業のサポートシステムが構築されてきたことを活かすために、いくつか検討をお願いしたい課題があります。With Coronaの時期における授業展開では対面授業と遠隔授業のハイブリッド化が求められますので、その基盤整備授業としても、ぜひご検討いただきたいと思います。とくに授業用デジタルコンテンツ作成は時間と労力がかかるものであり、作成のバックアップが提供できないでしょうか。こうしてつくられたもののうち、公開が可能であり、地域社会における関心が高いものを公開することで、大学の存在価値も高まるものと考えます。
- ・ アクセスの不安定さ、スマートフォン画面の小ささに起因する遠隔授業画面の見にくさや

複数ウィンドウの閲覧しにくさ、自宅にプリンターがないことに起因する資料印刷の不便性などが指摘されてきました。学生の遠隔授業を受講する環境整備については、引き続き充実の方向で検討をお願いしたいと思います。

- ・ 遠隔授業は試行錯誤の連続でしたので、いつものようにはできなかったこともあります。この間の授業の進め方の変化の長期的な影響を検証していく必要があります。そのための方針等をお示しいただければ幸いです。
- ・ 本学科では模擬授業などを含む実技系科目が多く設定されています。ビデオ会議システムでは、少なくとも双方の顔が見える状態にしなければなりません。自室からのアクセスで顔を表示することを促すためには、一定のルールを設ける必要があると考えます。また、バーチャル会議室(教室)のようなシステムを導入することも検討課題と考えます。

(4) その他(自由記述)

提出日：2021年1月7日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 英語学科

氏名 F. Shiobara ・V. Richings・川中紀子

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

初めての遠隔授業であったが、教員全員が自らの授業に真摯に向かい合い、学生により良い授業を提供しようという意欲と熱意が感じられた。このように、自己点検することにより、良い反省材料となった、という点で機能していると考え。様々な授業方法を模索しながら、試行錯誤の中で、科目の特性を活かした授業方法を各教員が工夫した軌跡を振り返り、また共有することで、自己点検は有意義であると考え。今回は初めて「総合評価」ではなく、「学生の達成度」に焦点を当てた自己点検であったので、学生自身の学習成果を教員が丁寧に振り返る機会になったことは評価できる。

(2) 改善すべき点

学生の達成できた度合いについて、教員の「自己評価」はまちまちであること。例えば、3点台であっても「達成できた」とする教員がいる中、3点台後半では、「やや達成できた」、または「あまり達成できなかった」と判断した教員もいる。科目の性質も異なるので、やむを得ない事項かもしれないが、数字と自己評価にバラつきがあるのはやや気になった。

そして、画一的に数字で見るのではなく、アンケートの回答率が過半数以下のものでは、信頼できるデータとは言いがたいので、回答率にも着目した自己点検が望ましいのではないかと。

また、数字には表れていない「自由記述欄」もなんらかの形で反映した自己点検を行うことが、有意義であると考え。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

以前から manaba に慣れてきた教員からは、対面授業時と比べて飛躍的な高得点を総合評価で得たとの報告もあり、技術的なスキルの高さが授業の成功につながる事が分かる。

今回の授業に先立って、遠隔授業のプロジェクトチームに技術的な知識を提供して頂いたことに感謝の気持ちを表明したい。

(4) その他

提出日：2020 年 12 月 18 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 日本語日本文化学科氏名 田附 敏尚

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

本学科は、日本語・日本文化に関する知識をもって、現代社会の動向を分析・予測できる人材の育成を図っている。自己点検・評価票を見るに、いずれの授業も、概ねこの方針に沿って展開されているようである。今年度前期は遠隔授業への対応が大変な中、非常勤講師も含めて各自出来る限りの努力や工夫をして授業に臨んでいたことが看取された。初めてのこともあるため、上手くいかなかった点もあったようだが、それらについても改善点として次年度に向けての指導案や改善案を提示していることが確認できた。また、これが ICT の利活用を考えるきっかけとなった教員も少なからずいたようなので、禍が転じて福となったといえよう。

(2) 改善すべき点

上述の通り、多くの授業担当者がこれを機に授業改善を目指しており、自己点検・評価のシステムとして大きく改善すべき点は見当たらない。今回は新たに学生の目標達成状況に関連した到達目標の評価が課されている。この中で、授業アンケート問 2 の「当科目平均点」と各授業の自己評価はある程度の相関はあるものの、完全に連動はしていない。ただ、これは学生の意識は参考にしながらも総合的に評価すべきことなので、これでよいと考える（細かい点を言えば、授業評価アンケートの到達目標の項目に関しては、全 15 回が終了する以前に実施しているため、最終的に到達したと学生が考えているかどうかはここからはわからず、そもそも補助的な判断材料にしかない）。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

今後遠隔と対面を併用する可能性を考えると、単純にカメラ・マイクなどの機材や設備を揃える必要があると考えられる。そこは、大学として整える必要があるのではないかと。

(4) その他（自由記述）提出日：2020 年 12 月 25 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 総合文芸学科氏名 田附 敏尚

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

本学科では、さまざまな文芸を対象にした学びを通して、幅広い知識を習得すると同時に批判的読解力を習得するほか、それらにもとづいた表現力を養うことを目指している。今年度前期は遠隔授業への対応が大変な中、非常勤講師も含めて各自出来る限りの努力や工夫をして授業に臨んでいたことが看取された。遠隔での授業は一方的になりやすいが、その中でも **manaba** の掲示板でのやりとりや **Zoom** でのディスカッションなど、これまで本学科が大事にしてきたアクティブで双方向的な学びが失われないような工夫が凝らされていた。初めてのことであるため、上手くいかなかった点もあったようだが、それらについても改善点として次年度に向けての指導案や改善案を提示していることが確認できた。

また、本学科の学びは ICT の利活用と相性が良いことを感じている科目も散見された。

(2) 改善すべき点

上述の通り、多くの授業担当者がこれを機に授業改善を目指しており、自己点検・評価のシステムとして大きく改善すべき点は見当たらない。今回は新たに学生の目標達成状況に関連した到達目標の評価が課されている。この中で、授業アンケート問 2 の「当科目平均点」と各授業の自己評価はある程度の相関はあるものの、完全に連動はしていない。ただ、これは学生の意識は参考にしながらも総合的に評価すべきことなので、これでよいと考える（細かい点を言えば、授業評価アンケートの到達目標の項目に関しては、全 15 回が終了する以前に実施しているため、最終的に到達したと学生が考えているかどうかはここからはわからず、そもそも補助的な判断材料にしかない）。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

今後遠隔と対面を併用する可能性を考えると、単純にカメラ・マイクなどの機材や設備を揃える必要があると考えられる。そこは、大学として整える必要があるのではないかと。

(4) その他（自由記述）提出日：2020 年 12 月 25 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 心理学科氏名 大和田 攝子・小松 貴弘

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

初めての遠隔授業の実施ということで、専任教員・非常勤教員ともに試行錯誤を重ねながら授業に取り組んでいる様子がかがえた。また、学生側の協力もあり、シラバスに示された到達目標は概ね達成できたと考えられる。

具体的には、分かりやすい資料の作成や動画の提供、課題への丁寧なコメント、個別指導などはいずれも高評価を得ていることが分かる。また、「掲示板」のスレッドや「プロジェクト」など manaba の機能を巧みに使用することで、グループディスカッションの他、学生の理解度を確認しながら質問に対して迅速に対応する双方向型の授業が可能となった例も多数報告された。

ほとんどの教員が次年度も manaba や Zoom 等の ICT の活用を検討しており、今回の反省点を踏まえた具体的な改善策を提示していることが確認できた。

(2) 改善すべき点

多くの教員が授業外での学習時間の短さについて指摘しており、対面授業実施時と同様、学習時間を確保する必要性を感じているようである。一方で、課題の量が多く学生にとって負担となっていた可能性もあり、適切な課題の設定が今後の課題と言える。

また、manaba の「掲示板」や「プロジェクト」を用いたグループワークや質疑応答があまり活発化しなかったという記述も複数見られ、タイムラグといったシステム上の問題以外に、テーマの設定や時間、教員の介入方法など検討の余地がある。

対面授業が制限される状況において遠隔授業の実施は避けられないが、実習的要素を含む科目は文字情報のみでの遠隔授業では限界がある。遠隔授業のメリット・デメリットを踏まえ、科目の性質に応じて授業方法を柔軟に選択できることが望ましい。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

特に遠隔授業については、その進め方や内容の工夫、あるいは直面する課題について、学科会議などの機会に情報を共有することを検討したい。

(4) その他（自由記述）

提出日：2020 年 12 月 17 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 都市生活学科／生活学科都市生活専攻

氏名 花田 美和子・前田 直哉

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

都市生活学科の各教員がいずれも授業アンケートの結果を真摯に受けとめ、学生より高評価を得た点については更に発展させようという意気込みを示す一方で、改善を要する点については前向きに検討していることが 2020 年度前期自己点検・評価票から確認できた。

(2) 改善すべき点

「(2) 学生の目標達成状況」内の「達成状況に対する要因があればご記入ください」という項目が無記入である自己点検・評価票が複数見られた。これでは他の項目である「当科目平均点をご記入ください」「アンケート結果から、シラバスに示された到達目標を次のいずれかで評価し、該当する番号に○をつけてください」との連関が希薄になり、何故そのようになったかが読み取れなくなるので、改善を要する。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

遠隔授業で学生対応に苦慮している教員の姿が垣間見られたので、その声を聞き出せるような仕組みが必要でなかろうか。また、上記の「達成状況に対する要因があればご記入ください」は「達成状況に対する要因をご記入ください」に変更すべきではなかろうか。

(4) その他（自由記述）

とくになし。

提出日：2020 年 12 月 22 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 食物栄養学科／生活学科食物栄養専攻氏名 田中 あゆ子・佐藤 友亮・橋本 沙幸

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

食物栄養学科では、管理栄養士学校指定規則に基づきカリキュラムを編成している。遠隔授業においても、カリキュラムに沿った授業が行えるよう、それぞれの科目担当者が試行錯誤を続け授業に取り組んだ。前期は manaba による遠隔授業が中心であったため、図表やイラストなどを用いて視覚的に学べるよう、資料作りを工夫している教員が多かった。

manaba のアンケート機能等によって、学生の理解度の確認を行ったり、レポートへのコメント投稿を行ったりする等、双方向性の維持を意識して遠隔授業が行われていた。

(2) 改善すべき点

- 授業準備に時間がかかり、課題へのコメントが不十分だったと感じている教員が多かった。
- 学生の反応が見られないため、manaba のみでの授業に限界を感じる教員も多かった。
- 出席確認のため授業内の課題提出を求めたが、提出期限を延長するよう学生から要望があった。出席確認の方法や提出期限の設定を検討する必要がある。
- 事前に学生の学習環境の把握を行い、配布資料の提示方法や出欠確認の方法を学生に案内する必要がある。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

manaba 以外の授業（視覚だけでなく音声配信や動画配信）、それに伴う web 授業用のカメラとスピーカーの導入を検討して欲しい。

(4) その他（自由記述）

- 高校理科の復習ができる教材（入学前講座で使用するようなもの）により、高校化学未履者の学習サポートができると良い。
- すべて遠隔か対面かの選択ではなく、それぞれのメリットを生かし、必要に応じた回数の遠隔と対面の混成授業を希望する。

提出日：2020 年 12 月 16 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 子ども発達学科氏名 大下 卓司

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

各教員とも、急な遠隔授業対応にもかかわらず、それぞれに工夫をし、授業を展開していたことが伺えた。学生の通信環境を確認した上で、zoom を活用するなど、学生の学習機会を保障しながら、対面授業に近い形で授業を実践しようと、悪戦苦闘した様子が伺えた。こうした個々の教員の工夫により、急な遠隔授業となったにも関わらず、無事終えることができたといえる。子ども発達学科は 2021 年度が最終の年度となるが、学内での感染防止に取り組むことで、卒業式を無事終えて送り出せるのではないかと考える。

(2) 改善すべき点

学生の環境を確認し、zoom の活用を教員が励む一方で、運用や学生の参加方法次第では、盛り上がり欠けるなど、苦勞をしていた様子が伺えた。遠隔授業の履修にあたって、学生の側としては、前提となるような PC の操作が教育学科では「情報リテラシー」で学習されると、今後も急な遠隔への切り替わりがあったとして、円滑に移行できるのではないかと考える。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

教育学科の学生に対しては入学時点、あるいは入学後間もなく基本的な PC の操作ができることで、学習の幅が広がる。学内の PC だけでなく、ノート PC の貸与なども充実させ、学習の前提となる IT スキルが身に付くことで、学びを有意義なものとして期待される。そのための、カリキュラム面、設備面の拡充が不可欠であると考え。また、遠隔授業については、オンデマンド型のように時間外の履修を認めるなど、弾力的な履修を容認することで、対面でしかできない学びと、学生が個人が深めるべき学びの双方の特性を生かした教育課程が実現できると考える。

(4) その他（自由記述）

提出日：2020 年 12 月 22 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 ファッションハウジング・デザイン学科氏名 徳山 孝子・戸田 賀志子

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

実習、演習系課目が多くを占める本学科であるが、授業担当者の様々な工夫によって、遠隔授業でも学びを保持し到達目標を達成することができた。教員からは、他人の意見に左右されない受講生の意見発信が行われた、個々の学生の能力や可能性を知る事ができた、対面授業では出にくい効果が得られたとの意見が多数提出された。受講生からは双方向の学びを基盤とする柔軟かつ熱心な対応への高い評価を得た。また、本学科の課題であった授業外学習時間の確保にもつながった。

(2) 改善すべき点

前述の通り、本学科は実習、演習系課目が多く配当されている。実習授業は言うまでもなく、学外研修やゲストスピーカーの招聘、専門機器や香料試料を用いた対面授業がシラバス通り実施できず、隔離された状態での取り組みに終始したことへの意見の提出が多くみられた。

また、大半が積極的に授業に参加する受講生である一方で、関心の薄い学生への対応策を今後の大きな課題とする意見も散見された。今回が本学での初めての授業担当者からは、学生とのオンラインを介してのコミュニケーションの取り方が難しかったとの感想が寄せられた。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

授業に関連する話題を提供しながらも、実体験が伴わないことによる学生の不利益にいかにして対処するのか。具体的には、「香りの美学」の科目担当者から香料試料を小分けして学生の手元に届けられるような方法を求める声があがっている。検討が必要かと思われる。

(4) その他（自由記述）提出日：2020 年 12 月 22 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教育学科

氏名 大下 卓司・垂髪 あかり

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

前科目が遠隔という初めての事態であったが、自己点検を行った全ての教員が、試行錯誤をしながら遠隔授業の準備、実施、評価に奮闘した様子が記されていた。授業準備段階では、遠隔授業や ICT に不慣れな学生の状況を考慮して、レジュメや資料の事前の公開、テキストベースのわかりやすい資料の作成、授業内容にあった動画等の活用などがなされていた。授業実施段階では、多くの教員が manaba 掲示板、プロジェクト、小テストの機能を使用し、学生との双方向のやりとりができるよう様々に工夫していた。nanaba の他には、ZOOM の活用や You Tube 動画を作成、公開を行っていた科目もあり、教員らが多様な ICT を活用し、学生らの学びの質を高めようと努力していたことがうかがえる。教員らのこうした熱意に答えるように、学生らの授業外学習の時間は「例年以上に多かった」という評価が多数見られ、多くの科目で学生らがしっかりと課題や学修に取り組んでいたことは大きな成果であった。

(2) 改善すべき点

約 3 ヶ月に及ぶ、慣れない遠隔授業で、授業課題が多い場合には学生も教員も疲弊、疲労が蓄積した点は大きい。適度な課題の質と量の模索、学生の習熟度に適した課題の選択が必要である。授業内では、対面授業と比較して学生同士の意見交流のしづらさ（テキストベース、リアルタイムの交流の限界）が多くの教員から指摘されていた。manaba を基本に授業を行なった教員が多く、ZOOM 等の活用の推進が求められる。また、授業内外を通して、個別対応の難しさを指摘する教員が複数いた。教員らは、メールやポータルを使用して個別対応しよう努力していたが、対面授業に比して個別の支援が必要なケースへの丁寧な対応が難しかったことは共通の課題であった。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

- ・ manaba や ZOOM の他、YouTube やグーグルフォーム等と複数の方法を組み合わせた ICT 活用の発展形についての講座や研修の実施
- ・ 遠隔授業下における学生への丁寧な個別対応のプロトコルの作成と共有

(4) その他（自由記述）

従来から ICT を活用して授業を行なっている科目では、対面授業においてこれまで以上に積極的、効果的な ICT 活用を行っていききたいという意見が複数あった。

提出日：2020 年 12 月 16 日

2020 年度前期 授業に関する学科・センター点検コメント票

所属 全学共通教育センター氏名 倉 真智子

2020 年度前期自己点検・評価票について、カリキュラム・ポリシー、教育方針などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

初めて manaba を活用された教員が多く、試行錯誤を重ねられた結果、平均点も 4 以上が多く、学生の目標達成状況も「達成できた」「ほぼ達成できた」という評価であった。

遠隔授業で効果のあった点として、掲示板やコースニュースを活用し、迅速に質問に答えることができたこと、zoom や解説動画等の提示が明瞭でより理解度が高まり双方向な授業が実践でき、対面より効果的であったとの記述も見られた。

このことから言えるように学生にわかりやすい授業や資料提供が充実し、学生の評価にも繋がったと考える。一方で、演習・実技科目ではかなり苦慮されていた。対面までの期間は技術を習得するための動画を撮影し、居ながらにして動ける内容を配信するなど、種目によって様々な工夫をしたことにより、スムーズに対面授業へつながっていった点は効果的であったとの記述が見られた。

(2) 改善すべき点

授業外学習の時間が manaba 上での課題と混同している学生もいたようで、科目間において差が出たように思われる。

また、今回は課題が毎回課せられたため、授業外学習を少なくされている教員も見られ、それらも要因として考えられる。

講義以外の演習や実技では zoom での授業を行ったが、学生が利用時にカメラを OFF にするため双方向通信のメリットが失われ、授業到達目標に及ばない点も出てきており、プライバシーの問題の在り方を考える必要を感じる。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

①アクティブラーニングを主とした科目担当者が今回の急な変更の対応で混乱され、当センターで対応したが、遠隔チームやヘルプデスク、教務課に関連することが多く回答に時間がかかった。今後は対応部署を明確にする必要がある。

②manaba の基本操作についての講習会や manaba 上でのテストコースの案内はあったが、その後も教員からの問い合わせが多くあった。当センターは非常勤講師が多くを占めているため、情報が錯綜し戸惑った。今後は発信を一本化し、前もっての説明が必要と思われる。

(4) その他（自由記述）

今年の前期に関しては、予測もできない事態が起こり、各教員もかなり苦慮された。

また、それらのフォローも遠隔チームと連携をとりつつ授業を遂行することができたが、今後においても不測の事態に即座に対応できるシステムの構築が求められる。

提出日：2020 年 12 月 21 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 キャリア教育センター氏名 青谷 実知代

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

キャリア科目では、資格を伴う科目以外（ファイナンシャル・プランニング、簿記・会計の基礎）は非常に高い評価となった。それには、先生方が以下のような様々な工夫をされたからだと考えられます。

- ①Manaba での資料配布に加え、資料の音声解説付き動画を YouTube にアップした。授業資料の他に YouTube にその授業で取り上げる職種の関連動画を挙げ、業務内容がよりイメージしやすいようにした。
- ②音声解説付き動画の再生時間を 20 分以内で収める。☞ 動画視聴は効果的であった
- ③エアラインなど将来の目標が明確な志望者も多いことから、質問には丁寧な回答を心掛けた
- ④ZOOMでの授業は、質問などもしやすく資料も提示できるため理解がしやすかった。
- ⑤資料のみでも分かりやすいように説明文を意識的に「口語体」にした。
- ⑥パワーポイントの枚数を意識し、集中力が途切れないようにした。
- ⑦小テストを始めたころから、学生からの質問がより具体的になり、一定の成果はあった
- ⑧全員への毎回のフィードバックは本当に大変でしたが、これは思った以上に学生に好評でした。文字ベースでも、みんなとつながっている感を感じてもらえたからだと思います。

(2) 改善すべき点

①manaba への資料掲載期間の見直し

: 授業資料は事前に掲載し、基本的に時間割の时限内で完結可能な内容にしていたが、学生によっては「掲載期間が短い」という意見もあった。

1名の学生から YouTube を見られないという問い合わせがあり、講師から状況のヒアリングを試みるも学生からの返信がなく、キャリアサポートセンター岩崎様へ相談し、学生に個別対応をお願いした。学生のインターネット状況などによって個別対応する必要があるのが大変であった。

- ②オンデマンド授業においては「出欠の取り扱い」について曖昧な点が多く悩ましい。
- ③ZOOM 等が途中から解禁された後も、①もちろん私自身もですが、何より学生のみなさんのネットワーク環境に不安があったこと、
- ④コマ数が 13 コマとなり、当初の内容をお伝えするにはとにかく時間が足りなかったこと

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

- ①資格試験に関連する科目は、対面の方が学生共に理解がしやすく学びやすい環境である点。
- ②スクリプトの形態に対して、色を付けてほしいとか、PPT に図式化してまとめてほしいとか、文章を短くして、コンパクトにまとめてほしいとか、そのような依頼が若干ありました。これについては、思考プロセスを伝えるにはスクリプトが現状ベターであり（個人的にはベストと思っています）、むしろそのスクリプトをもとに、自分なりにまとめていくことが学生の学びの一環だとも思っています。10,000 字程度の文字が多いというのは、それはそれで、大学で学ぶということを考えたとき、問題ではないかとも感じたりもします。学生指導の統一が必要ではないか。

③ZOOM参加時の学生の環境は不安です。ある授業では、大阪駅から視聴している学生がいた。学ぶ姿勢に問題がある。

④マナバの操作がキャリア教育センター所員しか触れないため、非常勤の先生（業者）にもある程度認められると、マナバでの双方向の授業がやりやすいと感じた。

（４）その他（自由記述）

提出日：2020年12月21日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 外国語教育センター

氏名 古川 典代

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

外国語教育センターでは、英語、フランス語、中国語、韓国語、日本語の各科目を管轄している。これまでは英語科目担当者が、積極的にアクティブラーニングを展開していったが、今回のコロナ禍における遠隔授業においては、他の語種の担当者も不慣れな中で manaba を活用し、アクティブラーニングを目指すこととなった。慣れてきたところで Zoom や Teams などの活用により、アクティブラーニングを取り入れていた。できる限りの努力を惜しまず、授業を対面と比してもなるべく劣らないように工夫し、授業を活性化している姿が多く見受けられた。

(2) 改善すべき点

ICT 活用に長じている教員は、manaba 各機能の活用や、その他のツールを積極的に導入しているのに対し、一方で ITC を苦手とする教員は四苦八苦していて余裕がない様子で、それに対する学生たちの評価も芳しくないようだ。今回は急な対応を迫られたせいもあるが、語種セクションごとにより連携を取り合って、同科目は同質の教育を学生に提供できることが望ましい。もっと研修会なども設けられたら良いのではないかと考える。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

CALL 教室の二つと、LL 教室の老朽化に伴い、2020 年度末に改修工事をし、CL 教室(コンピューターラボの略称)およびアクティブラーニング教室に生まれ変わる。そのため、来年度はこれらの教室を活用してアクティブラーニングがもっと展開しやすい環境が作れると考える。英語以外の語種の担当者にももっと活用していただき、本学で提供する語学の授業がさらに魅力的になることを願っている。

(4) その他（自由記述）

今回、一部の非常勤講師の方に「学生による授業評価アンケート」実施の詳細が正しく伝わっていなかったことがあり、「リマインダー」を発信するなどの情報を再確認する必要性を感じた。今後の教訓として、より緊密に情報の共有をはかるよう心掛けたい。

提出日：2020 年 12 月 17 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教職支援センター

氏名 松岡 靖

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- ①授業準備の段階から、突然の遠隔授業にもかかわらず、各教員が教職課程コアカリキュラムに配慮しつつ、資料・動画・課題などを工夫して授業を実施した。
- ②学生の目標達成状況では、多くの科目で学生による平均点が 4 前後まで伸び、教員による自己評価も「達成された」と「やや達成された」で大部分を占めた。
- ③遠隔授業により授業外学習はむしろ増えた傾向がみられる。とくに教科教育法では、模擬授業の指導案作成や予行演習などに学生たちは時間をかけていた。
- ③とくに教科教育法では、主に後半の授業を使って模擬授業などの実践的な内容を実施することができ、所定の教育効果を学生たちも実感できたと考えられる。

(2) 改善すべき点

- ①2019 年度からの教職課程認定をえるために、非常勤講師を含むオムニバス科目を増やさざるを得なかった。時間割編成委のための日程調整や、担当者間での授業内容の調整に苦労している様子が、今回の自己点検・評価票の記述からも読み取れる。
- ②manaba や Zoom などを教員が利用しても、当初は教員側のスキルや学生側の情報環境が万全ではなかった。後期や来年度に向けて向上させたいという意見が多い。
- ③突然の遠隔授業という事情で、教科教育法などを中心に個別の指導に苦労した場合もあった。とくに非常勤講師が対応に尽力され、改善したいとの意見がある。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

- ①担当科目に適合した研究業績をとくに専任教員が蓄積していけるように、まずは学内紀要やセンター年報などで研究を発表できるよう支援していきたい。
- ②学校教育に必要な ICT の活用を学生に促すためにも、manaba や Zoom などによるオンライン教育に関する SD などを担当教員対象に継続してほしい。
- ③教職課程履修生を含む全ての学生のために、オンライン教育に参加するためのハード面とソフト面の支援を、教務部が中心となって充実させてほしい。

(4) その他（自由記述）

とくにありません。

提出日：2020 年 12 月 13 日

2020 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教務課（資格課程科目等担当）氏名 鳥居 さくら

2020 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

（１）良かった点

前期の遠隔授業実施において授業担当者がそれぞれ工夫され、授業効果が上がった点が報告されました。例えば、授業支援ツールの manaba を利用することによって、学生はチャット形式で質問ができるため、学生によっては質問がしやすくなった効果や、一連の遠隔授業での内容をより理解しようとしていた履修生は、自主的に授業に参加することで積極性を持つことができるようになって、成績が向上した側面があったことに気づいていただいた点、また授業で毎回「最近のニュース」として博物館関連の話題を取り上げたことにより学生自身が関心を持ったニュースをレポートに積極的に記載してくる学生の姿もあったことなどです。遠隔授業においても、授業担当者と学生の積極性が一致すれば、授業の質を保つことができるという例として高く評価されると考えられます。

（２）改善すべき点

一方で、対面授業や学外研修の時間を持つことができないため、学生が自主的に学外の博物館や美術館などの施設を見学することや、実際に資料に接する機会を持てなかった点が指摘されました。遠隔授業では画像の資料などを用いて学生の理解を深めるための工夫はされていましたが、実物には及ばず、授業担当者にとって悩ましい点だったことがうかがえます。

またレポート課題への提出が遅れ気味になったり、授業時間における出席はするもの十分な学習には意欲がなかったりする学生もいて、それぞれの個別指導のあり方に改善の必要性についての指摘がありました。

（３）改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

2021 年度は感染拡大予防の行動をとったうえで、対面授業や学外研修を実施していけるようにしたいと思いません。

学生と教員との個別のやり取りについては、後期から manaba に「個別指導(コレクション)」の機能をあらたに追加しましたので、今後はそれを教員と学生に周知し利用の促進をはかることができると考えます。

（４）その他（自由記述）

遠隔授業を実施したことによりオンライン上の利点に気づいてそれを今後も活用していこうという積極的なご意見がありました。例えば、manaba での小テストやオンラインでの小課題レポートなどは時間内・時間外の課題として重すぎるものにならないので毎回の授業で利用していきたい、インターネットでの Google 検索や YouTube 動画の視聴などは授業への興味を喚起して、授業内容を深めることにも利用できる、などで、今期の遠隔授業は今後対面授業となっても応用できる手段を増やす機会になったとも考えられます。

提出日：2020 年 12 月 11 日